

理想の英語教育、国際教育への提言

—英語イマージョンから国際バカロレア IB-PYP への 25 年—

鈴木 克 義

Proposals for Reforming English and Global Education

SUZUKI Katsuyoshi

2022 年 11 月 4 日受理

抄 録

中学から大学まで 10 年かけても話せない日本の英語教育と言われて久しいが、その後大学入試センター試験にリスニングが導入され、小学校からの英語教育が必修になるなど改革の兆しは見えてきたものの、TOEFL の順位では OECD 加盟 37 カ国で最下位である。(ETS 2021)

英語教育に携わる者として日本の英語教育を改革したいと、娘を英語イマージョン保育の幼稚園に入れてみたり、探究学習+英語イマージョンの幼稚園で小・中学校を設立したりと、様々な改革の現場に足を踏み入れ、教え子を教員として送り込んできた。

ここ数年は山梨・都留文科大学の国際教育学科設立に関わり、日本初の国際バカロレア IB-PYP 教員養成課程で教えたり、浜松の英語イマージョン+IB 小学校の設立準備委員会に加わるなど、幼少期からの英語探究学習の普及と、教員養成にも力を注いできた。

このほど 25 年間奉職した常葉大学を退職するにあたり、これまでの研究・教育活動の総括と、今後の英語教育への提言を行いたい。

キーワード：英語イマージョン、国際バカロレア、IB-PYP、探究学習、教員養成

加藤学園・英語イマージョン幼稚園で、無理なくバイリンガルに

私が菊川にあった常葉学園短期大学の英語英文科に奉職したのは 1998 年からだが、その前の福岡時代から、静岡の沼津で英語イマージョン教育が始まったという噂は聞こえていた。最初は 1992 年に加藤学園暁秀初等学校で、翌年には幼稚園で、日本初の英語イマージョン教育が開始されたのである。

私はたまたま 1999 年から、富士常葉大学の開学準備で常葉学園富士短期大学での

勤務を命ぜられ、当初は藤枝から通勤していたが、静岡県東部地域での引越し先を探していたところ、加藤学園に程近い沼津のマンションに転居し、その年度途中から4歳の娘を、加藤学園幼稚園のイマージョンクラスに通わせることができたのである。

当時は4クラス中1クラスのみがイマージョンクラスで（その後2クラスに）、クラスを半分に分け、ネイティブの担任と日本人の担任が日替わりで英語と日本語で保育をするというパーシャル・イマージョンの幼児教育が行われていた。

インターナショナルスクールのように全て英語で保育をしなかったのは、英語を話す保育者が少なかったという事情もあるだろうが、園児のほとんどが日本人の子どもだったため、英語と日本語を日によって分けて保育するという方式は、無理なく日英バイリンガルの子どもを育てられ、保育関係者がよく心配する「日本語が疎かになる」ことも全くなかった。

娘はお陰で、1年半の英語イマージョン教育で普通に英語が話せるようになり、小学校は常葉学園大学（当時）附属たちばな小学校に入学して、1年次から週2～3時間の英語授業があったため、引き続き英語力を伸ばして低学年で、英検準2級に合格することができた。この辺の経緯はその後の著書に詳しく書いている（鈴木 2010）。

常葉短大に戻り、子ども英語コースで人材育成

富士常葉大学を立ち上げる仕事はそれなりにやり甲斐があって楽しかったのだが、如何せん新設大学に入ってくる学生は基礎学力が低く、当時の環境防災学部と流通経済学部では英語学習へのモチベーションを持つ学生は皆無に近かったため、4年間の完成年度を終えると当時の短大学長に願い出て、英語英文科に戻してもらった。

娘を加藤学園のイマージョンコースに通わせたことで、幼少期の英語学習が中学以降に始めるより遥かに効率が良いことが証明できたため、2000年に英語英文科が瀬名キャンパスに移転したのと同時に開設していた幼児英語コース（その後「子ども英語コース」に改称）で、保育科と協力体制で英語を話せる保育者の育成に乗り出した。

当初は人気の保育科に落ちた学生の受け皿になっていた面もあったが、ちょうどこの頃から加藤学園の成功を受けて幼児英語教育に乗り出す幼稚園も増え、相良のすすき幼稚園、静岡市の梨花幼稚園、長泉のエンゼル幼稚園などに教え子を送り出すことができた。そして2010年ごろには元祖イマージョン教育の加藤学園幼稚園に増田という学生が採用され、イマージョンクラスの日本人担任を務めたのである。

私はその後保育科に移るが、それまでに英語英文科の子ども英語コースから幼稚園や子ども英語スクールなどに就職した卒業生は120名を数え、中には現在エンゼル幼稚園で国際バカロレアPYPコーディネーターを務める、高城せり教諭のような人材もいる。

その後短大の英語英文科は解消して、教員の多くが常葉大学に移るが、外国語学部や教育学部では子ども英語コースのような人材育成ができておらず、逆に子ども英語関連の科目を削減する方向にあるのは残念でならない。

富士山静岡空港のオープンでエアライン人材を育成

私が常葉短大の公募で静岡に赴任して来たのは、当初 2001 年の予定で静岡空港が開港すると聞いたため、福岡でもホテルや JAL のグランドスタッフなどに人材を送り出した経験から、観光エアライン関連の人材育成ができると思ったからだった。

ところが空港の計画は遅れに遅れ、ようやくオープンしたのは 2009 年の 6 月だった。それでも英語英文科で立ち上げた観光ビジネスコースはその後エアライン観光コースと改称し、日本航空 CA 出身の教員も迎えて、ホテルや旅行業、エアラインで働くための英語やビジネスマナーなどを教えるコースとなった。

地元のホテルや東京の日航ホテルなどにも卒業生を送り出し、近畿日本ツーリストなど旅行会社、そして念願の富士山静岡空港株式会社にもグランドスタッフとして就職を果たしたが、この空港運営会社は鈴与や静岡鉄道など、地元企業の集合体だったため、鈴与グループが作った静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校の勢力が強く、なかなか就職先として食い込めなかった。

しかし前述の子ども英語コースと、エアライン観光コースをダブルで履修していた増田姉妹の妹が、幼稚園免許も取得しながら羽田空港のグランドスタッフとなり、その後 ANA の国際線 CA となったのが、エアライン観光コースの出世頭である。

静岡県地域通訳案内士の資格を取得、その後全国資格も取得して三冠王に

英語に関する検定試験といえば実用英語技能検定（英検）と TOEIC が有名だが、いずれも国家資格ではない。唯一の国家試験が観光庁管轄の通訳案内士で、英検 1 級、TOEIC900 点台と並び、取得すれば英語資格の三冠王と呼ばれるらしい。

英検 1 級はディベートで鍛えた学生時代に取得し、TOEIC900 点台もアメリカ大学院留学後に取得しているので、残りは通訳案内士だけだったが、地理・歴史・産業経済の筆記試験が難関で、受けるのを躊躇していた。

ところが静岡空港の開港を前に、通訳案内士の静岡県地域限定版ができるということで、腕試しに受けてみた。しかし全国版よりも地域限定のほうが出題範囲が細かく、例えば全国版で登呂遺跡が出題されるなら地方版では曲金遺跡といった具合で、初めて聞くような出題が多かったため挫折し、1 年間歴史を中心に学んで、2008 年に合格することができた。英語は英検 1 級を持っていると免除されるので、楽だった。

その後の通訳ガイド研修会で、地域通訳案内士の資格を持つ人に聞いてみたところ、多くの人が全国通訳案内士の資格も持っていたため、2014 年に全国版の通訳案内士試験を受けて、無事合格することができた。医師や看護師と同様、国家試験の合格者は官報に名前が載るのである。私はネット上で確認したが。

この時に学習した内容が、その後の外国語学部の、観光英語の授業で役に立っている。実際に通訳案内士として、清水港などを拠点に実務を経験することも増えた。

MEKで英語トータルイマージョンと探究学習に出会う

沼津で2000年に誕生した長男は、その後静岡市への転居に伴って2004年にオープンした英語幼稚園、MEK（Miyazaki English Kindergarten）に通うこととなった。

ここは静岡市麻機出身の永田園長が、嫁ぎ先の宮崎市で開いていた英語幼稚園を母体に、実家近くで始めたもので、幼稚園教諭の資格を持つオーストラリア人数名を雇い、英語ができる日本人も配置してほぼ全て英語で、オーストラリア式の保育をしていた。ここはいわゆる無認可幼稚園だったが、保育料は送迎バスも含め月4万円程度で、英語イマージョンの加藤学園幼稚園（当時5万円、今は6万円以上）よりも格安だった。

私はここの初代PTA会長となり、Sports Dayや芋煮会などのイベントも含め、積極的に参画する機会があったが、思えば英語トータルイマージョン+オーストラリア式の探究学習に出会ったのはここが初めてだった。息子は普通に英語で会話をし、英語で寝言を言うまでになったが、幼稚園で英語の生活をしていたせいなのか、家では逆に日本語の本やオモチャに興味を示すようになった。やはり幼児期から英語をやると日本語がダメになるということはない。

その後、ここの保護者だった酒井さんという女性が、静岡駅南で1歳から英語保育を行うベイビーバハというイングリッシュプリスクールを開設、さらに駿河区ではアメリカの大学院を修了した田形さんという企業家が開いたNBインターナショナルキンダーガートンがイギリス人などネイティブを雇用してオープン。静岡市は英語保育の黄金時代を迎えるが、上昇傾向だった保育料は2019年度途中からの保育無償化実施によって、このような無認可園にも適用され、通常の保育料の平均3万7千円が支給されるようになったため、若い親でも無理なく子どもに英語保育を受けさせられるようになった。

なおNBには常葉短大子ども英語コースの卒業生も働いており、ここのウェブサイトにある「教育方針」には、「国際バカロレア認定校を目指し、立候補いたします」とはっきり書かれている。

常葉グループは附属幼稚園を2園持っていて、いずれもネイティブや日本人による英語の時間を月に1～2回程度設けているが、英語イマージョンには程遠く、全く話せるようにはならない。せめて1園だけでも英語イマージョンクラスを設け、子ども英語コースの実習園にしていたら…と悔やまれるが、成功した英語幼稚園／プリスクールに共通しているのは、もともと保育業界の外から参入した人物が強力なリーダーシップの下に開設していることで、幼児期に英語を生活言語として習得することの大切さを肌で感じているからだろう。

常葉の前理事長は、加藤学園の理事も務めていた関係で、英語イマージョンを導入したいと言っていたそうだが、保育関係者の「まず日本語をしっかりと」という固い信念に阻まれたに違いない。言語習得の黄金期を逃してしまうのは誠に残念である。

国際青少年音楽祭で体験した常葉の国際化

この木宮和彦前理事長の時代には3年に一度、日本国際青少年音楽祭というイベントが常葉グループの総力を挙げて開かれ、世界中からオーケストラやミュージカル等、青少年の団体が招かれて、静岡市内の音楽ホールなど各会場で公演が行われた。

我々英語教員はグループ付きの案内役として駆り出され、観光ガイドも務めて、大学のバスで箱根などに連れて行った記憶がある。この時に息子は、知り合いの企業家に勧められた静岡サレジオ小学校に入学しており、草薙の校舎の屋上にカナダのミュージカルグループのリーダー家族を連れて行って、清水の花火大会を鑑賞した。2006年の夏だったが、リーダーの息子さんが体調を崩し、サレジオの養護教諭に診てもらったところ、流暢な英語で問診し、手当てをしてくれたのには舌を巻いた。

それに対し常葉グループの中高英語教員は、若い先生には優秀な人もいたが、年配の先生の中には英語が完全なカタカナ発音で、何を言ってるのか聞き取れないような人もいて、彼我の差を感じた。ただこういう交流の機会があったのは良かったと思う。

もちろん、サレジオの英語教員も全員優秀という訳ではなかったが、ジムというアメリカ人の英語教員が常駐していて、英語を話す息子を可愛がってくれたようだ。その後ニュージーランド人の英語教員も雇い、末吉校長はこの人に英語を習っていると語っていた。

娘と息子は静岡サレジオで、英語＋探究学習を体験

国際青少年音楽祭のフェアウェルパーティで小学生ながら英語でスピーチをし、当時の海野学長から「あれは君のお嬢さんだろう？」と誉められた娘は、中学に進むにあたり常葉学園大学附属中学を全て見て回ったようだが、せっかくたちばな小学校で英語力をキープしていたのに、3つの附属中学全てが英語をゼロから始めるようになって、残念がっていた。親としても附属中に行かず授業料が減免にならないのは惜しい。たちばな小学校で英語とオーケストラを体験した子どもたちは、一体どこの中学に進んでいるのだろうか？

結局娘は、静岡市内で英語のアドバンスクラスを設けていた静岡英和女学院とサレジオを見に行き、「恋もしたいし」と男女共学のサレジオを選んだ。中高の6年間、瀬名の自宅から自転車で草薙に通った娘は、みるみるリーダーシップを発揮し、中学では生徒会長を務め、英語の授業に私がアメリカ人ゲストを連れて行った時には、たじろぐ教員の代わりに娘が通訳を買って出た。娘はこの頃、国語の成績もトップだったそうで、入浴中にも文庫本を持ち込むような子に育ち、「幼児期から英語をやると日本語が疎かになる」という俗説が誤りであることを証明してくれた。

その後娘は高校時代に、AFSという歴史ある留学プログラムでチェコ共和国に1年間滞在し、チェコ語はすぐに習得、英語にも磨きをかけて帰ってきた。

静岡サレジオが国際バカロレア一貫教育校に

娘がなぜ、チェコで英語に磨きをかけたかということ、英語授業のやり方が日本と全く違い、ヨーロッパではスタンダードとなっている探究学習だったからだそう。

日本のように「はい、教科書開いて 28 ページを訳して！」といった授業ではなく、「あなたは日本人なんだから、日本について英語で調べて」と言われ、毎回「日本のお酒」など違うテーマでリサーチし、スライドにまとめ、英語でプレゼンし、質問に答えたそうである。これでどんどん、英語を話す度胸がついたという。

学会などでも「自分が詳しいテーマなら英語で話せる」と言う人がいるが、誰も知らない日本の事象について、自分が優位に立って話せるなら、自信がつくだろう。

サレジオには当時、留学に伴う休学制度がなかったが、娘の休学に際して僅かな在籍料で戻って来られる制度を作ってくれて、感謝している。この頃サレジオは、同じカトリックの上智大学と提携関係を強化し、ちょうど娘が戻ってきた翌年に上智大学で総合グローバルという新学部が募集を始め、サレジオからの推薦枠が増えて、欠席が多くやや問題があった娘でも滑り込むことができた。ラッキーな子である。

静岡サレジオはその後、上智大学の提携校となり、推薦枠を 30 名に増やした。探究学習がスタンダードであるオーストラリアから、国際バカロレアのコーディネーターを招聘し、幼稚園から小学校の IB-PYP、中学の MYP、高校の DP まで、全ての国際バカロレア認定校になっている。加藤学園は今でも PYP の認定校になっておらず、フルラインで認定を得たのはサレジオが国内の一条校で初めてである。(静岡サレジオ、文部科学省 2022)

実は現在サレジオの理事長で当時校長だった末吉弘治氏は、常葉大学の大学院で国際教育を学んでおり、IB-PYP コーディネーターを務める原田卓教諭も同大学院の修了生である。国道を 1 本隔てた隣で、先進の国際教育を行なっている学校があるのに、本学の教育学部や外国語学部には IB 教員 (IBEC) 養成コースがなく、附属学校に国際バカロレアが全く導入できていないのは残念である。窪田副学長は筑波大学で、IBEC コースを立ち上げた人物と聞いているのだが…。

外国語学部では早期英語教育関連科目の削減さえ検討されていて、英語を話せる小学校教諭、幼稚園教諭のニーズが高まっている現状と逆行している。このままでは、2023 年度から本格的に幼稚園からの、IBEC 教員養成を始める聖隷クリストファー大学国際教育学部に志願者が移るかもしれない。(聖隷クリストファー大学 2022)

聖隷クリストファー大では 2015 年ごろから、IB-PYP を導入する英語イメージョン小学校の新設を検討していて、2016 年には私の案内で岐阜の PYP 一条校第 1 号のサニーサイドインターナショナル幼稚園を見学、そして 2017 年には加藤学園から転出して「ぐんま国際アカデミー」を作った井上春樹先生を顧問とし、英語小学校新設準備委員会を立ち上げて、私もメンバーになり、オーストラリアの小学校や IB 教員養成大学などを視察し、2020 年に IB 候補校として小学校を開校することができた。

都留文科大学、福田学長との出会いと国際教育学科の設置

私が国際バカロレアに関心を持つようになったのは、娘が加藤学園に通っていた2000年にちょうど、暁秀中学校がIB-MYP（ミドルイヤープログラム、11～16歳対象）の認定校になったことで、2年後に暁秀高等学校がIB-DP（ディプロマ・プログラム、16～19歳）認定校となったが、幼稚園・小学校レベル（プライマリーイヤー・プログラム、3～12歳）のIB-PYPは、2016年の岐阜市にある私立幼稚園＋小学部、サニーサイドインターナショナルスクールの認定まで待たなければならなかった。

それまでのPYPは、IBの中でも1997年の誕生と歴史が浅いこともあって、国内では横浜インターナショナルスクールが最初だったと思うが、TIS（東京インターナショナルスクール）など文科省管轄外の外国人向け学校で導入されているだけだった。

前に述べた常葉短大英文科に優秀な増田姉妹を送り込んだのは、藤枝の英語学校、神谷学院を経営する神谷俊郎先生なのだが、この人物は私の人生に何かと転機になるアドバイスを与えてくださるメンターである。2006年に出版された都留文科大学の福田誠治教授（のちに学長）の名著、「競争やめたら学力世界一」を私に紹介してくれたのもこの方で、この本がなければフィンランドの探究学習やIBに関心を深めることはなかったかもしれない。神谷先生は通訳案内士の大先輩でもある。

一読して、この本が日本の教育を変えるかもしれないと直感した私は、福田先生にさっそくファンレターを書き、当時理事を務めていた日本協同教育学会にゲストレクチャーとして呼び出したのである。

その後、福田先生が都留文科大の学長になって、英語英文科を改革し、本格的な国際教育を行う学科を開設したいという希望を持っていると知った私は、国際バカロレアの教員養成を始めていた玉川大学のIB教育フォーラムにご一緒したり、ぐんま国際アカデミーのイマージョン教育／IBDPシンポジウムで知り合ったTISの坪谷ニューエル郁子理事長をご紹介し、TISを見学させてもらったり、2014年にはデンマークのIB-PYPインターナショナルスクールを視察したりと、国際教育学科開設へ向けて地ならしをして行ったのである。

ちなみに国際教育学科という名称も、福田学長の考えでは当時流行っていた「国際教養学科」にしたいとのことだったが、それでは秋田の国際教養大学や早稲田の国際教養学部の下にランクされてしまいますよと進言し、都留文科大学の強みを生かした国際教育学科に決定した。これは狙い通りに、ただ英語ができるだけでなく、探究型の教育を実践したいという優秀な教員志望の学生が、全国から集まる結果となった。

1つ残念だったのが、IB-PYPの教員養成ができる日本初の学科であるにもかかわらず、幼稚園教諭の免許が取れないため、3歳から12歳までという範囲をフルにカバーできないことである。これは保育系学科を設置すると大学のレベルが落ちるという誤解と、英語英文科から強力な反対に遭ったことが原因で、いずれ幼児英語教育では聖隷クリストファー大学国際教育学部の追随を許すことになるかもしれない。

サニーサイドインターナショナルから始まった、日本の PYP 一条校

2021年にいよいよ高知の公立小学校でも IB-PYP 認定校が誕生し、全国に2万校近い日本の小学校で、地域振興を兼ねた国際教育が始まろうとしている（鈴木 2022）。その先鞭を付けたのが岐阜市にある、サニーサイドインターナショナルスクールという名前の一条校幼稚園+小学部である（鈴木 2017）。

ここの出会いは非常に運命的で、短大英文科子ども英語コースの卒業生、落合せり（その後高城せり）教諭が勤める長泉町のエンゼル幼稚園から 2016 年の春に、将来の教員研修先や親子留学プログラムの派遣先を下見するため、ニュージーランドとオーストラリアの英語学校と IB プリスクールを見てきてほしいという依頼を受けた。

私はその頃、監査役になっていた山梨のマリア国際幼稚園の教員研修先である、ニュージーランドのエバコナという、日本人女性が経営している英語学校に打診し、落合教諭らを連れて行ったのだが、その時にたまたま見学させてもらった隣のプリスクールが Kauri Learners という、サニーサイドが経営する保育施設だったのである。

この時にニュージーランド人の園長から、サニーサイドの渡辺園長の名刺をもらい、「訪ねて行ってください」と言われたのだが、岐阜の幼稚園だし、とくにすぐ訪ねようとは思わなかった。ところが落合教諭がホームステイしたイギリス人宅の奥さんから、日曜日に近所の公園で開かれる朝市を勧められ、行ってみたところ日本人のグループが出店していて、そこで出会ったのが渡辺園長の奥様だったのである。

話をしてみると、渡辺園長が日本の教育を諦め、お子さんを奥様と一緒にニュージーランドへ親子留学させていること、サニーサイドスクールが日本で最初の PYP 認定一条校であることなどがわかり（その時が認定された直後だった）、これは行かなければということで、エンゼル幼稚園の野秋園長と落合教諭、それに保育科卒業生でカナダワーホリ留学から帰ってきた教諭を連れて、何かに呼ばれたように岐阜へ向かったのだった。



渡辺園長とはその後何回も、関心のある幼児教育関係者を連れて面談しており、エンゼル幼稚園はサニーサイドの姉妹園となってニュージーランドでの親子留学を開始し、横浜のやまた幼稚園も、同世代の谷澤理事長が渡辺園長と意気投合したようで、エンゼル同様に姉妹園となって、いずれも IB-PYP の候補校となり、2021 年までに認定校となった。PYP は 12 歳までのカリキュラムなので、どちらの幼稚園も 2025 年を目標に、探究型の PYP イマージョン小学校開設を目指している。



聖隷クリストファー大学国際教育学部のPYP 教員養成

浜松の聖隷クリストファー大学では、2021年の9月からこども教育福祉学科で3年次からの国際バカロレア関連カリキュラムをスタートさせていたが、2023年4月から国際教育学部を開設させることになった。内容を見ると、これまでのこども教育福祉学科カリキュラムにIB-PYP関連の5科目を追加しただけにも見えるが、取得資格として幼稚園教諭と小学校教諭資格、それにIBECのPYP教員資格を挙げており、4年間で全て取得できるかは疑問が残るが、幼稚園教諭の資格が取得できるPYP教員養成コースが誕生するのは画期的である。

ただ1つ残念なのは、IBEC関連科目は「日本語による授業で安心して履修できます」と書かれていることで、たしかにPYPはどの言語で行っても良いことになっているため、日本語PYPでも構わないのだが、現在IB-PYPを導入している私立幼稚園・小学校の多くは英語で授業を行なっているため、ここを卒業した学生を採用するPYP校があるかどうかである。

聖隷クリストファー幼稚園と小学校では、英語はネイティブにお任せというスタンスで、日本人教員には英語力は問わないのかもしれないが、ネイティブとの打ち合わせは英語で行わなければならない、不安は残る。

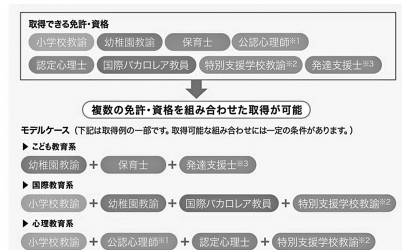
その点、都留文科大学国際教育学科のカリキュラムは、英語科目に限らず英語で行われているものが多いため（たとえば私が担当しているディベートは、留学生がいるため全て英語で行なっている）、英語でPYPを導入している学校に就職しても対応可能である。そもそも最近の円安傾向で、外国人教員にとっては日本は賃金が低い国となっているため、将来的にネイティブが安定して採用できるかは未知数である。

小学校英語必修化の先輩である韓国では、以前はネイティブ教員と韓国教員がチームティーチングをする風景が普通だったが、数年前に視察した際には、英語が話せる韓国教員のみを採用し、半年間英語だけで授業できるよう研修してから現場に出していた。日本もいずれそうなるだろうし、そもそも公立小学校での英語はクラス担任が教えることになっている。



キャリアプランに応じた免許・資格の取得

1年次は基礎を中心に学び、2年次より資格取得に向けての学びを本格的に始めます。
キャリアプランに応じて複数の資格から自由に組み合わせることで、自分の夢に向かって学ぶことができます。



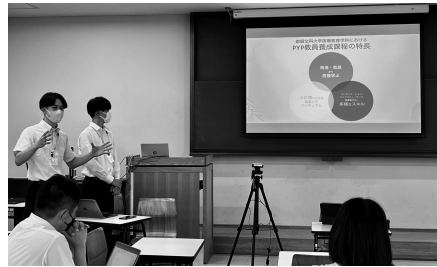
おわりに：都留文科大学の第2フェーズと、常葉大学グループへの提言

2022年9月に、国際バカロレア教育学会が聖隷クリストファー大学で開催されたのだが、私が主催したIB教員養成のラウンドテーブルセッションに、元サニーサイドの教員で現在は横浜のやまた幼稚園でPYPコーディネーターを務めるミント・チャウ教務主任と、都留文科大学からはPYP教員養成コースの3年生2名が参加してくれた。

このうち福島くんという学生は、ぐんま国際アカデミーで高校時代にIB-DPを取得しており、IB教育体験者が国際教育学科でIB教授法を学び、またIBの現場に教員として戻るといふ、良い循環が生まれている。実は聖隷クリストファー中学校でMYPコースを開設した野原教諭も、ぐんま国際アカデミーのDP修了生であり、都留文大国際教育学科の1期生なのである。

都留文科大学は2017年の国際教育学科誕生から丸6年が経ち、2022年9月に国際バカロレア機構(IBO)との契約更改を行った。

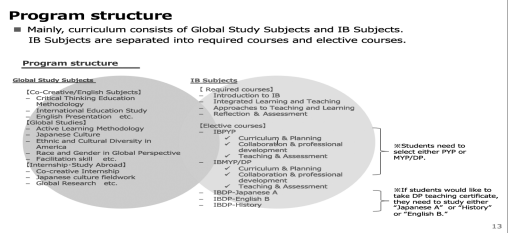
6年前の認定時には2日間の審査が行われたようだが、今回はオンラインの半日審査で済み、私もPYPカリキュラム編成法の担当者として



ズームで参加し、IBO審査員からの英語インタビューに答えさせてもらった。内容はコースの目的、授業内容、評価方法などで、幸い鋭い追求などもなく、和気あいの雰囲気の中、都留文科大学はIB教員養成機関として、第2のフェーズを迎えることとなった。

ちなみに国内で四年制学部にてIBECコースを置いているのは岡山理科大、聖隷クリストファー大と都留文科大だけであり、英語でPYP教員を養成しているのは都留だけである。私は2023年度には、国際教育学科のゼミとディベートを担当する予定である。

No major changes to the program structure



お世話になった常葉大学グループには、以下の提言を行いたい。

- ・ 附属幼稚園2園のうち1つに英語イマージョンクラスを設け、IB-PYPを導入する
- ・ たちばな小学校、中高でもイマージョンクラスを設置し、MYPを導入する
- ・ 英語教員は全員、英語で授業ができる者のみを採用する
- ・ 外国語学部または教育学部に国際教育学科を設置し、IB教員の養成を行う
- ・ 保育学部／保育科があるメリットを生かして、幼稚園免許も取れるようにする
- ・ 高校生対話弁論大会をリニューアルして、高校生英語ディベート大会を行う
 → 優勝チームのメンバーは全員、外国語学部の入試を免除し、奨学金を与える

参考文献、ウェブサイト

- ETS (2021) Test and Score Data Summary for the TOEFL iBT 2021
<https://www.ets.org/content/dam/ets-org/pdfs/toefl/toefl-ibt-test-score-data-summary-2021.pdf>
- 鈴木克義 (2010) 「英語は小学校からでは遅すぎます！」 幼年教育出版
- 加藤学園幼稚園 英語イメージョンコース
<http://www.katoh-net.ac.jp/Kindergarten/japanese/course/index02.php>
- MEK イングリッシュプリスクール
<https://www.mekshizuoka.com/hoiku.html>
- ベイビーバッチ ウェブサイト
<https://www.babybach.net/>
- NB インターナショナルキンダーガーデン 教育方針
<https://www.nbik-edu.com/policy>
- 静岡サレジオ (2022) 日本初の国際バカロレア一貫教育校誕生
<https://donbosco.ssalesio.ac.jp/ib>
- 文部科学省 (2022) IB 教育推進コンソーシアム 認定校・候補校
<https://ibconsortium.mext.go.jp/ib-japan/authorization/>
- 聖隷クリストファー小学校 ウェブサイト
<https://www.seirei.ac.jp/elementary-school/>
- 聖隷クリストファー大学 国際教育学部 2023 年 4 月開設予定
<https://www.seirei.ac.jp/department/international-education/>
- 福田誠治 (2006) 「競走やめたら学力世界一〜フィンランド教育の成功」朝日選書
<https://amzn.asia/d/9fA1IDD>
- 鈴木克義 (2022) 「国際バカロレアと英語イメージョン小学校の教員養成」常葉大学外国語学部紀要 第 38 号
https://researchmap.jp/martysuzuki/published_papers/36879727
- 鈴木克義 (2017) 「国際バカロレア IB-PYP を導入した初等英語教育」常葉大学短期大学部紀要 第 48 号
https://researchmap.jp/martysuzuki/published_papers/26973475
- エバコナ語学学校 (2022) ウェブサイト
<https://www.evakona.jp>
- Kauri Learners (2022) ウェブサイト
<http://www.kaurilearners.com/>
- エンゼル幼稚園 (2022) ウェブサイト
<https://www.angel-kindergarten.com/>
- やまた幼稚園 (2022) ウェブサイト
<http://www.kaurilearners.com/>

